令和4年度「奇跡の復興米」取組紹介

ひがしにほんだいしんさい ひさいち おおつち とんだばやし つな 東日本大震災の被災地・大槌町と富田林市を繋ぐ

きせき

ふっくうまい

奇跡の後興米

その苗は、東日本大震災で被災した岩手県 大槌町でガレキの中から見つかった3株の

富田林市・富田林市立小学校 JA大阪南・JA大阪南青壮年部 がこの取り組みに参加しています



富田林市「奇跡の復興米」を 紹介するウェブページのURL

「奇跡の復興米」バケツ稲栽培セット バケツに貼り付けたシールのイメージです

「南錦の復興年」の植えにませて、

の言葉のりえんなのだと見ったり、これでしていました。 これはやけり、つきなとちのがまた、その様に見いないないないないとのでとなった。また、その様にまいとのなりにはなって、また、その様にまいとのだと見ってま したがなく 大紅町氏もこの きょうしゅ 様にまいるとう はんえい あんでとり からいない からいない からいないだと見っているのだと見っているのでと見っている。 今年も春の日植えのでと見っている。

問題に心が痛みする。また、内外に目を動じれば人的な影惨なまた、内外に目を動じれば人的な影惨な

正しく学んでいただけたら幸いです。体験しそして「奇跡の後期な」のルーツを皆構の元日本の主食である「米文化」を皆構の元日本の主食である「米文化」を高の林寺の児童生徒の皆えは

行言の資料を送るいたださ、改かて、身の引き、育師の須御を送るいたださ、改かて、身の引き「旁崎の須卿系」我指紀追、取り組み教徒また追日、A大阪南我緒委員会 構了

のそせた稲を発見した生地の場所を五月の桜の満角の日津波後私か了禄余設にちますか

ウグイスか天真く「ホーホケキョ」と話わると、

小さな小さななときなるがいやされました。場にてくれました。

がりご指移といたします。終りに教の豊作と合せて内外の早和を

二〇二三年 春午日に到了一天祖後要年

2,

/.

「奇跡の復興米」田植えによせて

压しく学んでいただけたら幸いです。体験し、そして「奇跡の復興 光 のルーツを皆様の元、日本の主食である「米文化」をこの美しい自然の中、ご指導して下 さる間題に心が痛みます。問題に心が痛みます。の言葉のゆえんなのだと思ったりしていまか。また、その様をくろきり「十年ひと昔」何か遠い日の出来ごとの様に思い出したり、まれはやはり「十年ひと昔」何か遠い日の出来ごとの様に思い出したり、また、その様をくろきり「十年ひと音」を生大一年となりましたが数えて九年目の田植え、おめでとうございます。今年も春の田植えの李飾となりました。

締まる思いで拝読いたしました。等の資料を送っていただき、改めて身の引き写の資料を送っていただき、改めて身の引き「奇跡の復興光」栽培経過、取り組み報告また過日、了A大阪南栽培委員会様より

小さな小さなひとときですが、いやされました。鳴いてくれました。 ウグイスが天高く「ホーホケキョ」と 訪ねると の痩せた稲を発見した生地の場所を 玉月の桜の満開の日、津波後私が3株条談になりますが

祈り、ご挨拶といたします。終わりに、秋の豊作と合わせて、内外の平和を

(大槌復興米) 菊池 妙岩手県大槌町ニ○ニニ年 春の日に

初後與等人不能後與各

tite um

大下、ご指移といたします。多くの間保存の管括に、おうかれます、と底部を申る事を、そは、マスクなしの日常に定れることをがり

いやされまり、いちとれることのでは、いるとのうとのではないな人をなれないないないがしまっていることでは、いるストラアも国内外ではしまいしいエュースのまいは

ひとしと聞います。様々れなり、大きなエネルギーと、浴を、そして継をとして、松りラは天主者、動物関の動物はそのくろをはには送られるとのこと。

送って下さったり、又能人本地塞で被災した養成即私の住む、若等學大視的の大祖等質の給食用になる時人以上學会的沒有日に一等協の後期子上の一部門は賣多な用目できまった事とらいいます。

まり、またその中の体験から深山の事柄を答うだけ、収穫の日となかえるは、い日まんには、沢山の学術を答るができるが、ちまんには、沢山のご常労るからまりの田道え、そして松川りもコロナ格により、この

あめでとういないます。まれるないなるない、初かり

一本の孫の後期年、福州りによせて

岩手県大槌町「大槌復興米」いれてけんねねつちちょう おおつちふっこうまい

上げ、ご挨拶といたしますぁゖ゛ごねいさっ

多くの関係者の皆様に、おつかれさま、と感謝を申しキキギ~ タイクニメータ タセセヤササ

来年こそは、マスクなしの日 常に戻れることを祈りらいねん

いやされます。

又、今年も国内外で暗く悲しいニュースの多い中また。ことし、こくないがい、くらくかなしいにゅっす。 おおいなか

ひしひしと感じます。

使われたり、大きなエネルギーと、愛、そして絆をっかわれたり、おおきなえねるぎー あい きずな

そして、稲ワラは天王寺動物園の動物たちの寝床にいなわる。 てんのうじどうぶっえん どうぶつ ねどこ

行も淑の名をとのこと。

送って下さったり、又、熊本地震で被災した益城町おくってくださったり、また、生もとじしん。ひさい ましきまち

私たちの住む、岩手県大槌町の大槌学園の給食用におたしたち、すむ いおてけんねおつちちょう おおつちがくえん きゅうしょくよう

皆さんが一生懸命育てた「奇跡の復興米」の一部はみなさん、いっしょうけんめいそだてた。きせきょうこうまい いちぶ

貴重な月日でもあった事と思います。
****・ っきゃ

あり、またその中の体験から沢山の事柄を学んだ

なか たいけん たくさん ことがら まなんだ

収穫の日をむかえる迄、皆さんには、たくさんのご苦労がしゅうかく、ひ

今年の田植え、そして稲刈りもコロナ禍にあり、この」」とした。

おめでとうございます。

数えて九回目となります「奇跡の復興米」稲刈りゕぞぇてきゅうかいめ

「奇跡の復興米」稲刈りによせて

※熊本県益城町への復興米支援は 昨年度をもちまして 終了いたしました

喜志っこクラブの田植え





喜志小学校の田植え

東条小学校の田植え













子供たちのお手製カカシが見守り







みんなの力で刈取りました







5月30日讀賣新聞



富田林で

田植え

常日本大震災の津波を生き延びた稲から

行われる。 秋に収穫し、 市内の子ども食

今後、市内の各小学校などでも田植え

宮田林市が種もみを譲り受け、JA大阪 NPO法人が栽培。同町を支援してきた 株が自生しているのが見つかり、地元の 南などと14年から市内などで栽培してき 完全に贈られるという。 復興米は震災から半年後の2011年 岩手県大槌町の家屋流失跡で稲穂3

の復興は、まだこれから。被災地に思いを 植えていった。市立臺志小6年太谷恋夏 はせながら、9月の収穫まで大切に育て 100人が参加。 吉村醤美市長が「大槌町 を取られながら、一列に並んで丁寧に苗を ましょう」とあいさつ。子どもらは泥に足 さん(エ)は「水が冷たくて気持ちよかった。 この日は、地元の子ども会の 児童ら約

朝日新聞 6月1日

に一部跡の復興米」の種もみを譲り 一言の田んぼでは、小学生や原見・わりながら、約150平方がにイ 2011年の東日本大震災で被、この日、水を張った田んぼに裸 足で入った子どもたちは「冷た ネが)大きくなってほしい。 年生の田辺昭彩さん(6)は「イイ 林市内で6月8日まで続き、河南 やりたい」と話していた。 初めて田植えに参加した小学1 一奇跡の復興米」の田植えは富田 一列になり、近くの農家に数 「気持ちいい」と歓声を上げ 「奇跡の復興米」を田植えずる富田 市書志地区の子どもたち一富田林市

6月2日 産経新聞

みを乗り受け、 て地元で繋塔された。 かり、復興のシンボルとし したことが含っかけで種も している3株の稲穂が見つ た大槌町の住宅跡地で自生 富田林市は、同町を支援 丁A大阪南 笑顔だった。 はご飯を食べてみたい」と できた。元気に育って秋に 苗をしっかり植えることが 剛志者(1)は「初めてでも 供されたりするという。

参加した同小5年の山本

23年10月、津波被害を受け 災後の平成 る米は、

市内のこども食堂に提 大槌町に送った

差町の田んぼ 指導を受けて丁寧に苗を植 えていった。秋に収穫され を取られながら関係者らの

校でパケツ栽培も実施して 米について説明を受けた 植えるほか、市内の16小学 田植えを開始。田んぼに足 毎年育でできた。田んばに 約日人が上列に並んで

とも協力して平成38年から

「奇跡の復興米」の田植えを行

6月12日 毎日新聞



東日本大陸災で津波に襲われ

東日本大震災

と岩手景大槌町の住宅跡で実っ た稲穂をルーツとする「奇跡の 復興米」の苗が、富田林市の田 んばに植えられた。地元の小学 生ら約50人が参加し、復興への 思いを込めて植えた。大震災の 記憶を次世代に伝えようと同市 の地元融額などが2014年から毎 年企画し9回目。

市立書志小6年の木村千紘さ

ん(11)と松浦唯さん(11)はどろんこになりながら12%ほどに青 った苗を3本ずつ植え「震災前 の大槌町に早く戻ってほしい」

と願った。 大理災から約7カ月後の11年 10月、津波による塩害に負けず、 民家のがれき跡で稲穂が見つか った。岩手県護野市のNPO法 人が着やした種もみを14年2 月、被災地でポランティア活動 をした富田林市の団体に客贈し た。その年から児童らと一緒に 田植えをして栽培し続けてい



JA大阪南広報誌「はばたき」11月号

JA広報誌にも 掲載しました。



員会は、9月11日と12日、富田林市喜志町内の圃場で、復 めて今年で9年目となります。 米の稲刈りを行い、 た稲をルー く、収穫されたお米約300kgが岩手県大槌町へ里帰り さもわかった」と話しました。 もみから苗を栽培し、慶災を風化させない取り組みを 当JAと富田林市 「岩手県大槌町奇跡の復興米」 栽 刈り当日は当JA役職員やJA青壮年部、 は、2011年3月に発生した東日本大震災を生き延 ーツとする「奇跡の復興米」。縁があって当JAで 地元小学生は「お米を収穫する大変さも 地元小学生らが参加しました。 今年は例年以上に、 地元の関係 出来が 刈り

楽

JA大阪南広報誌「はばたき」4月号

青壮年部高鷲学園

JA大阪南青壮年部は2月16日、児童養護施設高鷲学園へ、地場産の農産物などを提供しました。青壮年部では、これまで部員が育てた農産物を使った料理や、紙芝居などで児童との交流を深め、食育活動を行ってきました。

今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、イベントを中止し、トマト・ミカンやシイタケ等の農産物8種類、子供向け雑誌「ちゃぐりん」と当JAより奇跡の復興米30kg等を手渡しました。青壮年部 浅岡弘二部長は「今後も支援活動を継続し、新鮮な農産物で子供たちに元気を与えたい」と話しました。





天王寺動物園に寄贈しました 動物たちの寝床に使用されるそうです



がセントしました



稲からも有効活 稲からも有効活 用させていただ きました。 富田林市「岩手県大槌町奇跡の復興米」 栽培委員会 委員長 様

> 大槌町学校給食センター 所長 吉 田 智



向春の候、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度は、心温まる復興米を賜り深く感謝申し上げます。

復興米は、学校給食において町内の全児童生徒と教職員合わせて800名以上に提供 させていただいたほか、町内の保育施設や子ども食堂へ配布させていただきました。

この度のご厚情に対しまして、略儀ながら書中をもって御礼申し上げますとともに、 委員長様はじめ皆様のますますのご発展とご活躍をお祈り申し上げます。







